

特集

病棟でこれをやると 退院はうまくいく

在院日数短縮の流れが年々強まるなか、医療ニーズの高い状態のまま退院を迫られる患者が増えています。こうした患者の在宅療養・転院をスムーズに行なうために、大規模病院では専任の退院調整看護師を配置する施設が増えています。しかし、専任の退院調整看護師を配置できない施設も多く、また配置できた場合でも、少人数の専任看護師だけで退院調整のすべてをフォローすることは不可能です。

退院調整の要の仕事を担うのは、実は病棟。本特集では「病棟で行なう退院支援」の極意をご紹介します。

■「退院支援」とはなにか？ 宇都宮宏子

■病棟が主体となって行なう退院支援成功のコツ 原田かおる

■小規模病院で退院調整を成功させるコツ 大釜幸子

■退院支援カンファレンス充実のコツ 蝦名美岐

■退院支援のための医療制度活用術 村上紀美子

ルポ

「失敗の効用」と「集団の力」 あたらしい運動プログラム「ふまねっと」

本誌編集室

特別記事

「ふまねっと運動」の出自と理念 Walk から Work へ

北澤一利

編・集・後・記

●出張で行った会津若松駅前に「ならぬことはならぬものです」という大きな看板がありました。地元の方に聞くと「会津の子供はみんな、こう言われて育てられるんです」とのこと。うーん、すごい。何がすごいって、「ならぬ」理由にはまったく触れていないあたりが、「どうしていけないの？」という“子供の問い”を力技で封殺しています。

このフレーズは、「^{しやう}什の掟」という会津藩の頃から続く訓辞で、全文は次のようなもの。「一、年長者の言うことに背いてはなりません」「二、年長者にはお辞儀をしなければなりません」「三、虚言を言うことはなりません」「四、卑怯な振舞をしてはなりません」「五、弱い者をいぢめてはなりません」「六、戸外で物を食べてはなりません」と来て、最後は（やはり理由は述べて）「ならぬことはならぬものです」と締められていました。ついつい何事にも理由、言い訳を考えてしまう我が身を思わず省みてしまったものです。【鳥居】

●編集者で集まり、今号の特別記事「夫婦で認知症を生きる時代」で取りあげている認知症研修ビデオ「ふたりの時を心に刻む」の上映会を開催しました。最初は、つまらないかもしれないと勝手に思いこみ、また、主人公よりもその奥さんの心情に注目しよう、と冷静に見るつもりでした。しかし、ビデオが進むにつれ、そんな冷静さはどこへやら……。いつのまにか目頭が熱くなり、涙がこぼれそうになっていました。そんな、泣けるほど心がジーンとなるシーンが満載でした！そして、終了後に私の目が真っ赤だったことは言うまでもありません。とにかく、素晴らしいビデオですので、読者プレゼントへのご応募をお待ちしております！【吉田】

看護学雑誌 第72巻第9号 2008年9月1日発行(毎月1回発行)

発行/株式会社医学書院 代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2008, Printed in Japan

1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%) 年々め予約購読料 13,200円(税込、送料弊社負担)

・定期購読のお申し込み先/(株)医学書院販売部 TEL 03-3817-5659

・Vol.70 No.8以前のバックナンバーのご注文先/(株)東亜ブック TEL 03-3985-4701

『看護学雑誌』編集室(担当/白石・鳥居・吉田) TEL 03-3817-5772

E-mail kangaku@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(TEL 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0386-9830/08/¥250/論文/JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。